

# サクラはいつ見られるの？大阪はお寺のたくさんある街？ ～ フィリピンで開催された「Travel Tour Expo 2014」に参加しました ～

自治体国際化協会シンガポール事務所（以下、CLAIR シンガポール事務所）は、2月、フィリピンのマニラで開催された「Travel Tour Expo 2014」（以下「TTE」という。）に参加しました。

旅行フェア会場の様子や来場者の声をご紹介します。

## 1. フィリピンの訪日旅行市場

フィリピンは人口約 9,400 万人を抱える東南アジアの島国です。2013 年は 11 月の台風 30 号直撃による甚大な被害が記憶に新しいと思いますが、経済面で見ると 2013 年の GDP 成長率の見通しが 7%程度とアセアン諸国中最も高い水準を維持しています。JNTO によると 2013 年の訪日フィリピン人数は 10 万 8 千人（推定値）で前年比 27.4%増となっています。



アキノ大統領による開会宣言

## 2. 来場者の声

「サクラはいつ日本に行けば観られますか」この質問は Visit Japan Pavilion ブース（以下「VJブース」という。）で一番多く受けた質問です。フィリピンの観光シーズンがイースター休暇にあたる 3 月～5 月に集中するため日本への旅行＝桜というイメージが定着しています。多くはゴールデンルート（東京⇄大阪間）上の桜の名所についての質問ですが、4 月末の航空券を手配済みだという方には桜前線についての説明を行い、東北に行けば桜が見られるという情報を提供したところ、非常に喜ばれました。



VJ ブースでのスタッフ対応の様子。

次いで多かった質問として「大阪はどこにある」、「大阪のお寺に行きたい」といったものでした。この背景には地場の LCC 会社セブ・パシフィック航空が関西国際空港に乗り入れていることが影響していると思われます。但し、大阪に京都や奈良などのイメージを重ねている方も多く、まだまだ認知度は高くないことを認識しました。また今回のフェアでは 3 月末から LCC などがマニラ⇄名古屋間

を増便することに併せて旅行会社がアルペンルートのパッケージを販売したため、ルート上の観光地への質問も寄せられました。しかしながら名古屋以外の中部地域についてはま

だ知名度は高くない印象を受けました。またフィリピン市場と他の東南アジア市場との違いとして北海道の知名度がまだ高くない印象を受けました。ウインターシーズンの観光客をターゲットにしている地域は「雪＝北海道」が定着していないフィリピンは狙い目の市場と言えるかも知れません。

以下に観光ブースで受けた主な質問を記載します。

興味・関心のあること	来場者の要望例
旅行先	東京・大阪・中部（アルペンルート）・箱根・富士山・北海道・京都・沖縄 ・初めて日本に行くが、どこがおすすめか教えてほしい ・以前日本に行った際には、東京・大阪・京都へ行った。また東京に行こうと思うがおすすめはどこ（気に入った地域に複数回行く傾向があった。）
日本の風景・文化・伝統	・桜が見たい、見頃を教えてほしい ・富士山が見たい ・お寺が見たい ・雪が見たい ・旅館（和室）に泊まりたい。 ・〇〇に行きたいが英語は通じるか？（言葉に対する不安）

### 3. ゴールデンルートの次は

フィリピンは他の東南アジア市場と比較すると訪日旅行者数はまだ多くありません。しかしながら 2013 年 7 月に発給開始された数次ビザの影響や LCC の増便など明るい材料もたくさんあり、今後さらなる訪日者数が期待できる市場と言えます。

訪日旅行の主流がゴールデンルートであり、それ以外の地域についてのイメージが鮮明になっていない同国では、裏を返せば今後の戦略的な売り込み次第で人気の観光ルートとして定着し、多くの訪日客を誘客できる市場ではないかと思われます。また国民の平均年齢が 20 代前半であることから日本が持つ強力なコンテンツである「食」、「四季」、「自然」など以外にも「アニメ、ファッション」など若年層をターゲットにした売り込みも今後検討する必要があると思われます。



日本のコスプレも非常に人気のジャパ  
ンカルチャーとして定着している。

CLAIR シンガポール事務所としても今後益々成長するフィリピンの訪日市場について注視していきたいと思えます。

#### 4. TTE の概要について

今回の「TTE」の概要は以下の表のとおりです。

概要	<p>本イベントはフィリピン旅行業協会（PTAA: Philippine Travel Agencies Association）が主催するフィリピン最大規模の国際旅行博覧会であり、フィリピン富裕層をターゲットに同国最大のショッピングモールに隣接した SMX Convention Center を会場として開催された。</p> <p>開催は年1回であり、一般来場者が各旅行会社・航空会社のブースで販売される旅行商品を購入することができる。また、各国の政府観光局（以下「NTO」という。）のブースなども出展し、旅行業者と各国関係者の情報交換の場であると共に、各国の NTO が一般来場者へ各国の観光情報や文化を PR することができる。</p>
会期	2014年2月14日（金）15日（土） 10:00~21:00 16日（日） 10:00~19:00
開催場所	フィリピン・マニラ SMX コンベンションセンター
主催	フィリピン旅行業協会（PTAA: Philippine Travel Agencies Association）
対象	一般消費者
入場料	一般 50 ペソ、高齢者 20 ペソ ※1 ペソ≒2.26 円（2014 年 3 月 3 日時点）
来場者数	70,116 人
出展団体数	719 ブース

（下村所長補佐 愛知県田原市派遣）